



講談社刊「あらしのよるに」シリーズ1～6巻より
日本図書館選定協定図書

あらしのよるに

あるあらしの夜、

暗闇の山小屋の中で出会った

ヤギのメイとオオカミのガブ。

お互いの姿のわからぬまま、

二人はすっかり意気投合。

「あらしのよるに」を合い言葉に、

再会を約束しました。

翌日再会した二人はお互いの正体にびっくり。

食べられるんじゃないかと疑う自分を責める

メイと、エサとともだちにはなれないと

葛藤するガブ。

お互いの仲間にも反対されながら、

ますます友情を深めあう二人でしたが…

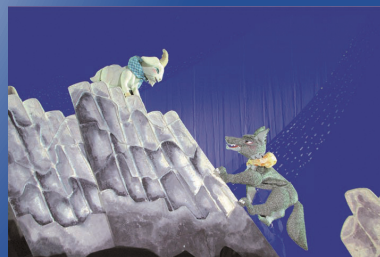
原作：きむらゆういち（講談社刊）

脚色：東口次登 演出：三木孝信

美術：西島加寿子 音楽：一ノ瀬季生

照明：永山康英 写真：田嶋哲

制作：中山美津子



世界の一人ひとりとは幸せになることを望んでいるのに、それがものすごく大きな集団になるとどうしてゆがんでしまうのだろうか。

人間ってなんだろう？

もっと人間の奥底にある感情というものをじっくり表現したくて、人形芝居にしました。喰う食われる関係にあるオオカミとヤギが友だちになる。だが、そのお互いの心の中はどうか。いつ破綻してもおかしくない状況だ。オオカミがペロリとヤギを喰っちゃえばいいのだから。互いの心の中を探り合いながら、緊迫した中で友だちであり続ける二匹。その困難な道を歩む事で二匹は真の友だちになる。そして、ヤギはオオカミにいう「友だちだったことは絶対に消えない」と…。

人間は友だちだったことを忘れるのかもしれない。「心の底から消えない友だちが、今、絶対になのだ」と思う。良く読まれている絵本ですが、二次元の絵本では味わえない、三次元の、心の次元もいっぱい含んだ人形芝居ならではの世界を是非ご堪能下さい。

演出 東口次登

